

プログラム・ノート

矢澤孝樹

初来日となるイスラエル・チェンバー・プロジェクト(以下ICP)をまず特徴づけるのは、編成のユニークさだ。ヴァイオリン、チェロ、クラリネット、ハーブ、ピアノ。これにゲスト奏者が加わるが、このような編成の常設室内楽団体は、まず他に見出し難い。「シーズン・ゲスト」であるヴィオラの赤坂智子へのインタビュー(CMG2025特集ページに掲載)によると、編成よりも音楽家同士のつながりこそがグループ創設の主要因のようだ。キーパーソンはハーブのシヴァン・マゲン。ハーブが入ることで、楽曲やアンサンブルの音色のバラエティは大きく広がる。

当プログラムはその特色が生かされた曲目だ。加えて赤坂智子によれば、「ボヘミア的な色彩、土臭い東ヨーロッパの空気感を出したいという意図」もある。この点も意識しつつ、各曲を概観してゆこう。

ハイドン：ピアノ三重奏曲 ト長調 Hob. XV:15 (ハーブ、ヴァイオリン、チェロによる)

ヨーゼフ・ハイドン(1732～1809)の現存40曲を超えるピアノ三重奏曲は、「弦の伴奏つきピアノ(フォルテピアノ)・ソナタ」から、三者対等の真の三重奏曲へと変貌してゆく軌跡だ。本作は後者の性格が強い、円熟期の小さな傑作。ハイドンがハンガリーの貴族エステルハージ家の楽長から自由な音楽家へと転身してゆく1790年に書かれた。本来はピアノ、フルートもしくはヴァイオリン、チェロという編成。ピアノ・パートをハーブで奏でるICPの演奏が楽曲の印象をどう変えるか。**第1楽章** ト長調、4分の4拍子、**第2楽章** ハ長調、8分の6拍子、**第3楽章** ト長調、2分の2拍子の3楽章からなる。

ブルッフ：8つの小品 作品83 より VI、III、IV

生涯を通じ古典的なロマン派作曲家として生きたマックス・ブルッフ(1838～1920)の1910年作。クラリネット、ヴィオラ、ピアノというユニークな編成はクラリネット奏者の息子を想定してだが、クラリネットはヴァイオリン、ヴィオラはチェロでも演奏可能。一部の作品(たとえば第3、6曲)にはハーブも想定していたというが、ICPは本来の編成で演奏。**VI.「夜の歌」** ト短調、4分の4拍子、**III. 嬰ハ短調**、4分の3拍子、**IV. ニ短調**、2分の2拍子が抜粋して演奏される。今回は演奏されない第5曲が「ルーマニアの旋律」と題されているなど、ロマン派の残照の中、東欧の空気も漂う。

マルティヌー：室内音楽第1番 H. 376

その東欧チェコに生まれたボフスラフ・マルティヌー(1890～1959)だが、1923年にパリに出て以降、望郷の念に駆られつつ帰郷することはなかった。膨大な量の作品を残したが、この『室内音楽第1番』(第2番は書かれなかった)は死の年に書かれた作品。本日のICPがぴったり当てはまる編成で、プログラムはこの曲を中核に組まれたのだろう。印象主義の響き、新古典主義の辛口な抑揚、和声の魔術、変転する曲想。マルティヌーが取り込んできた20世紀音楽の諸潮流が自在に組み合わせられ、ほのかに望郷の念が香る。陽気で狂気じみてどこか切ない遺作。**第1楽章** 4分の2拍子、**第2楽章** 4分の3拍子、**第3楽章** 4分の3拍子の3楽章からなる。

シューマン：『幻想小曲集』作品73 (クラリネットとハープによる)

ロベルト・シューマン(1810～56)に「幻想小曲集」の名を持つ作品集は作品12と111(ピアノ独奏)、本作、作品88(ピアノ三重奏)の4曲ある。「幻想(ファンタジー)」こそはこの作曲家の特質を象徴する言葉だと言えよう。本作は1849年、シューマンが住んだ中でもっとも「東」にあたるドレスデンでの最後の時期に書かれた。クラリネットのパートはヴァイオリンやチェロでも代替可能だが、ICPはピアノをハープに替える。「ファンタジー」はいかなる変容を遂げるか。曲は短調で物憂く始まり、曲を追うごとに憧れに満ちて飛翔してゆく。

ブラームス：ピアノ四重奏曲第3番 ハ短調 作品60

「東」から西のデュッセルドルフに向かった最晩年のシューマンを待っていたのは病による精神の致命的崩壊だった。この直前にシューマン夫妻と出会い世に出ることになったヨハネス・ブラームス(1833～97)は、恩師の悲劇に遭遇し、妻クララとの愛に苦悩する。その最中、1855年に書かれた嬰ハ短調のピアノ四重奏曲は20年近く封印され、1874年に改作され出版された。「楽譜の表紙にはピストルを頭に向けた男の姿が似合う」とブラームスが自嘲気味に語った本作は、彼の楽曲の中でもっとも切迫したもののひとつだろう。6月21日のICPの第2回公演で取り上げられるベートーヴェンの「英雄」とは、人間の悲劇性と英雄的努力という点で、選曲にコインの裏表のような関係性を感じる。

ICPはオリジナル編成を尊重。この曲にはピアノの容赦ない打鍵がやはり必要だろう。**第1楽章** ハ短調、4分の3拍子、**第2楽章** ハ短調、8分の6拍子、**第3楽章** ホ長調、4分の4拍子、**第4楽章** ハ短調、2分の2拍子の4楽章からなる。